

授業科目	歯科予防処置論Ⅲ（歯周病予防処置）		分野	専門分野
時期	3 学年 通年（前期）		単位数	2 単位（60 時間）
担当者	吾妻聡 ¹⁾ ・人見早苗 ²⁾ ・吉田ちづる ²⁾ 大場智美 ²⁾ ・結城泉 ²⁾ ・舟橋良子 ²⁾ 半田茜 ²⁾ ・平井愛梨 ²⁾ ・秋葉まゆ美 ²⁾		実務	¹⁾ ○（歯科医師） ²⁾ ○（歯科衛生士）
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本 歯周病学（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版（医歯薬出版）			
参考書				
一般目標	口腔健康管理の意義を理解し、歯周病の予防・治療での各ライフステージでの指導方法や技術を身につける。また、歯周病の発症に関わる全身疾患等の因子を考察できる能力を身につけ、臨床での実践に導く。			
到達目標	1. 歯周病の概要、治療、全身疾患との関連を説明する。 2. 歯周病の予防、メンテナンス、SPT を説明する。 3. 様々な歯周病患者の症例を観察し、発症に関わった因子を考察する。 4. 歯周病患者の症例を歯科衛生過程から問題解決アプローチの重要性を理解する。			
	講義・演習・実習			
成績評価方法	定期試験・履修態度・出席率・提出物			
回	授業項目	学習内容		担当者
1	歯周疾患の治療	歯周病（概要・治療法）		人見
2	歯周疾患の治療	歯周病と全身疾患との関連		人見
3	歯周疾患の治療	歯周病の予防		人見
4	歯周疾患の治療	メンテナンスとSPT		人見
5	歯周疾患の治療	口腔健康管理と歯周治療		人見
6	特別講義	トレーニングセミナー		Nancy Mann
7				
8				
9				
10	事例検討	歯科衛生過程に基づく症例検討		人見
11	事例検討	歯科衛生過程に基づく症例検討		人見
12	事例検討	歯科衛生過程に基づく症例検討		人見
13	保護者実習	オリエンテーション		吉田
14	歯周疾患の治療	症例検討		吾妻
15	歯周疾患の治療	症例検討		吾妻

授業科目	歯科診療補助論Ⅲ	分野	専門分野
時期	3学年 前期	単位数	1単位 (30時間)
担当者	半田茜 ¹⁾ ・舟橋良子 ¹⁾ ・吉田由希子 ¹⁾ 鈴木淳 ²⁾ ・結城泉 ¹⁾ ・大場智美 ¹⁾ ・吉田ちづる ¹⁾ ・平井愛梨 ¹⁾ ・秋葉まゆ美 ¹⁾	実務	¹⁾ ○ (歯科衛生士) ²⁾ ○ (歯科技工士)
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 歯科器械 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 歯科材料 (医歯薬出版) 器材準備マニュアル (口腔保健協会) デンタルスタッフのための歯科保険診療ハンドブック 2017年版 (全国保団連)		
参考書	チェアーサイドデンタルマテリアル (医歯薬出版) 歯科医療における感染予防対策マニュアル&研修テキスト (医歯薬出版) 新人歯科衛生士・歯科助手ポケットマニュアル第2版 (医歯薬出版)		
一般目標	歯科医療の現場における診療の補助を理解し、各診療の流れに沿った的確な診療の補助ができるために、より実践的な技術枝を習熟する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科診療補助の意義と法的責任について説明できる 2. 歯科診療室における歯科衛生士の役割を理解し、適切な対応について考察することができる 3. 医療人としての自己管理について考察し行動できる 4. 歯科衛生士が行うべき診療室の薬品・材料の管理および医療廃棄物の区分について説明できる 5. 暫間被覆冠を作製できる 6. 的確に業務記録を作成できる 7. 訪問歯科診療時の補助について説明できる 8. 治療の流れを説明し、器具を準備することができる 9. 歯科用材料の取り扱いについて説明できる 10. 訪問歯科診療時の補助について説明できる 		
学習方略	講義・演習・実習		
成績評価方法	定期試験・実技試験・提出物・出席状況		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	診療補助実習	暫間被覆冠作製法 (単冠)	鈴木
2	診療補助実習	暫間被覆冠作製法 (単冠)	鈴木
3	診療補助実習	暫間被覆冠作製法 (単冠)	鈴木
4	診療補助実習	暫間被覆冠作製法 (単冠)	鈴木
5	診療補助実習	暫間被覆冠作製法	鈴木
6	診療補助実習	暫間被覆冠作製法	鈴木
7	診療補助実習	暫間被覆冠作製法	鈴木
8	診療補助実習	暫間被覆冠作製法	鈴木

9	診療補助実習	歯科訪問診療における対応	吉田由
10	診療補助実習	齶蝕治療と歯周治療の流れ（復習） 診療ステップと診療補助 症例検討	吉田由
11	診療補助実習	口腔外科処置時の歯科診療補助 脳貧血時の対応 実技試験事前練習	半田
12	診療補助実習	実技試験	半田
13			
14	診療補助基礎Ⅲ 診療補助実習	その他の材料 ワックス 義歯用材料 インプラント用材料 まとめ	半田
15	診療補助基礎Ⅲ 診療補助実習	ホワイトニング （松風セミナー）	半田
16			

授業科目	臨床実習・臨地実習Ⅲ（臨床）	分野	選択必修分野
時期	3学年 通年	単位数	11単位（495時間）
担当者	臨床実習施設長 ¹⁾ 臨床実習指導歯科衛生士 ²⁾	実務	¹⁾ ○（歯科医師） ²⁾ ○（歯科衛生士）
教科書			
参考書	臨床実習帳 新人歯科衛生士・歯科助手ポケットマニュアル第2版（医歯薬出版）		
一般目標	臨床実習の場において実践できる能力を身につける。		
到達目標	1. 病院における各職種の役割を知りチーム医療の実際を理解する 2. 療法別の診療補助ができる 3. 歯科医師の指示、指導のもと患者の保健指導と予防処置を行う 4. 特殊歯科診療における歯科衛生士の役割を理解する		
学習方略	臨床実習		
成績評価方法	臨床実習前・中・後実習評価・指導者評価・出席状況		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	臨床実習	受付業務	臨床実習施設 指導 歯科医師 指導 歯科衛生士
2		環境整備	
3		感染予防対策	
4		臨床検査法	
5		救急処置・心肺蘇生	
6		エックス線撮影の補助	
7		材料の取り扱い	
8		共同動作	
9		う蝕予防処置	
10		スケーリング	
11		ルートプレーニング	
12		保健指導	
13		ホワイトニング	
14		保存治療	
15		補綴治療	
16		小児歯科治療	
17		矯正歯科治療	
18		歯周治療	
19		口腔外科	
20			
21			
22			
23			
24			
25			

26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			
41			
42			
43			
44			
45			
46			
47			
48			
49			
50			
51			
52			
53			
54			
55			
56			
57			
58			
59			
60			

授業科目	テーマ研究	分野	選択必修分野
時期	3学年 通年（前期）	単位数	3単位（45時間）
担当者	永田一樹・橋本紀洋・黒江敏史 齋藤壽彦・石川恵生・穂積英樹 村上任尚・大峽 潤・富樫正樹 吉川圭美・塩田千尋	実務	○（歯科医師）
教科書	卒業研究 HAND BOOK（クインテッセンス出版）		
参考書			
一般目標	歯科保健の現状を分析し、みずから問題点を発見し、その解決能力を身につける 課程において、医療職のアイデンティティとしての研究を学習する		
到達目標	1. 研究に必要な基本的内容を列挙する 2. テーマの選択方法を理解する 3. 研究の進め方を列挙する 4. 発表の方法・論文のまとめ方を理解する		
学習方略	講義・グループワーク		
成績評価方法	チェックリスト・自己評価・定期試験		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	UNIT1	歯科衛生学の卒業研究とは何か	永田
2		グループワーク 文献検索方法	教務
3	UNIT2	問題発見 日常の疑問を研究テーマとする	永田
4			
5			
6	UNIT3	研究の準備	教務
7	UNIT4	倫理的配慮と個人情報保護を考える	永田
8	UNIT5	問題解決の手順	永田 橋本
9	UNIT6	データの収集	塩田
10	UNIT7 UNIT8	収集したデータから解決策を見つける手段 データから図表をつくる	塩田
11		研究計画書の作成	永田
12		研究計画書の点検	永田
13	UNIT9	論文にまとめる	永田 橋本

授業科目	臨地・臨床実習学習法Ⅲ	分野	選択必修分野
時期	3学年 通年	単位数	1単位 (30時間)
担当者	舟橋良子・半田 茜・結城 泉 大場智美・吉田ちづる・平井愛梨 秋葉まゆ美	実務	○ (歯科衛生士)
教科書			
参考書	臨床実習HAND BOOK (クインテッセンス出版) 新人歯科衛生士・歯科助手ポケットマニュアル第2版 (医歯薬出版)		
一般目標	臨床臨地実習を円滑に行うために、必要な知識・技術・態度を身につける		
到達目標	3年生における臨地臨床実習において学習する内容を理解する		
学習方略	講義・演習		
成績評価方法	授業態度・出席状況・提出物・終了時試験評価		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	臨床実習事前学習	臨床実習Ⅲオリエンテーション	吉田
2		臨床実習Ⅲの心構え	
3	臨床実習事後学習	臨床実習第1期振り返り	吉田
4	臨床実習事後学習	臨床実習第2期振り返り	吉田
5	臨床実習事後学習	臨床実習第3期振り返り	吉田
6	臨床実習事後学習	臨床実習第4期振り返り	吉田
7	臨地実習事前学習	東北文教大学との交流事業準備	舟橋
8	臨床実習事後評価	臨床実習事後評価 (筆記試験)	吉田
9	臨床実習事後学習	実技試験オリエンテーション	吉田
10	臨地実習事前学習	臨地実習Ⅲオリエンテーション	舟橋
11	臨床実習事後評価	臨床実習事後評価 (実技試験)	教務
12			
13	臨地実習事前学習	臨地実習Ⅲオリエンテーション	舟橋
14	臨地実習事前学習	臨地実習Ⅲオリエンテーション	舟橋
15		臨地実習Ⅲの心構え	

授業科目	歯科予防処置論Ⅲ（歯周病予防処置）		分野	専門分野
時期	3 学年 通年（後期）		単位数	2 単位（60 時間）
担当者	吾妻聡 ¹⁾ ・秋葉まゆ美 ²⁾ ・大場智美 ²⁾ 吉田ちづる ²⁾ ・結城泉 ²⁾ ・半田茜 ²⁾ 平井愛梨 ²⁾		実務	¹⁾ ○（歯科医師） ²⁾ ○（歯科衛生士）
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本 歯周病学第2版（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本 保健生態学第3版（医歯薬出版）			
参考書				
一般目標	口腔健康管理の意義を理解し、歯周病の予防・治療での各ライフステージでの指導方法や技術を身につける。また、歯周病の発症に関わる全身疾患等の因子を考察できる能力を身につけ、臨床での実践に導く。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生過程のプロセスに沿って模擬患者の情報収集ができる。 2. 歯科衛生過程のプロセスに沿って模擬患者の歯科衛生診断ができる。 3. 歯科衛生過程のプロセスに沿って模擬患者の歯科衛生計画立案ができる。 4. 歯科衛生過程のプロセスに沿って模擬患者の歯科衛生介入ができる。 5. 歯科衛生過程のプロセスに沿って模擬患者の歯科衛生評価ができる。 6. 歯科衛生過程のプロセスに沿って模擬患者の書面化ができる。 7. 保護者実習での問題点を考察し、症例として発表することができる。 8. 超音波スケーラーによる歯肉縁下への操作法を体験する。 9. 座位によるスケーリング、PMTC ができる。 			
学習方略	講義・演習・実習			
成績評価方法	定期試験・履修態度・出席率・提出物			
回	授業項目	学習内容	担当者	
1	超音波スケーラー実習	超音波スケーラー相互間実習（縁下）	白水貿易	
2	超音波スケーラー実習	超音波スケーラー相互間実習（縁下）	白水貿易	
3	座位によるスケーリング	座位によるスケーリング相互間実習	秋葉	
4	座位による PMTC	座位による PMTC 相互間実習	秋葉	
5	模擬患者実習(保護者)	模擬患者実習（保護者）媒体作成	秋葉	
6	模擬患者実習(保護者)	模擬患者実習（保護者）媒体作成	秋葉	
7	模擬患者実習(保護者)	模擬患者実習 保護者来校 A 班 問診、口腔内写真撮影、 再評価	吾妻	
8				
9	模擬患者実習(保護者)	模擬患者実習 保護者来校 B 班 問診、口腔内写真撮影、 再評価	吾妻	
10				
11	模擬患者実習(保護者)	模擬患者実習（保護者）振り返り、まとめ	秋葉	
12				
13	振り返り実習①	歯科予防処置論振り返り相互間実習	秋葉	
14				
15	まとめ	歯科予防処置論総まとめ	秋葉	

授業科目	歯科保健指導論Ⅲ	分野	専門分野
時期	3学年 後期	単位数	2単位 (60時間)
担当者	人見早苗 ¹⁾ ・小関千賀 ¹⁾ ・エスタウェア・結城泉 ¹⁾ ・大場智美 ¹⁾ 舟橋良子 ¹⁾ ・半田茜 ¹⁾ ・吉田ちづる ¹⁾ 平井愛梨 ¹⁾ ・秋葉まゆ美 ¹⁾	実務	¹⁾ ○ (歯科衛生士)
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬出版) 歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション第2版		
参考書	最新歯科衛生士教本 口腔保健管理 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 (医歯薬出版)		
一般目標	口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上に向けて、口腔機能管理と指導を行うために専門知識と技術、態度を習得する。また、チーム医療に関わる医療職としての自覚を持ち、臨床での実践に導く。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に関する法律と制度を理解する。 2. 地域包括ケアシステムの構成と歯科衛生士の役割について理解する。 3. オーラルフレイル(口腔機能低下症)の評価方法を理解し、体と心の健康維持を視点としたフレイル予防の知識を持つ。 4. 低栄養を予防し、全身の健康管理を行う食支援の視点を持つ。 5. 口腔衛生管理での評価方法を理解し、口腔衛生管理や指導を安全に配慮し行える。 6. 口腔機能管理での評価方法を理解し口腔機能訓練方法を適応できる。 7. チーム医療に関わる関連職種と歯科衛生士の連携のあり方を説明できる。 8. 認知症に対する知識を持ち、罹患した患者に対応することができる。 9. 介護サービス事業所・施設等の種類を理解し、在宅訪問歯科医療も含めた臨床での歯科保健活動を想定することができる。 10. 歯科診療室など様々な場면을想定した英会話ができる。 		
学習方略	講義・実習		
成績評価方法	定期試験・出席状況・学習態度・レポート提出状況		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	介護・社会福祉概論	基礎知識・高齢者に関する法律と制度	小関
2	高齢者疑似体験	高齢者疑似体験	小関
3			
4	認知症サポーター養成講座	認知症サポーター養成講座	小関
5			
6	口腔機能管理の基礎知識	口腔機能管理の必要性和口腔機能訓練 (P)口腔機能向上の基本	人見
7	歯科衛生士と多職種連携	介護サービス事業所・施設など様々な場面での歯科衛生士の役割と多職種連携	人見
8	演習	口腔機能評価と口腔機能訓練	人見
9			
10	口腔機能管理のまとめ	歯科衛生士が行う摂食・嚥下リハビリテーション	人見
11			
12	ビジネスマナー	診療時における英会話	エスタ
13	ビジネスマナー	診療時における英会話	エスタ
14	口腔清掃用具	口腔清掃用具	結城
15	(ライオンセミナー)	歯ブラシ・歯磨剤について	

授業科目	臨床実習・臨地実習Ⅲ（臨地）	分野	選択必修分野
時期	3 学年 通年	単位数	11 単位（495 時間）
担当者	指導歯科医師 ¹⁾ ・指導歯科衛生士 ²⁾ ・舟橋良子 ²⁾	実務	¹⁾ ○（歯科医師） ²⁾ ○（歯科衛生士）
教科書			
参考書			
一般目標	福祉施設等の現場において口腔機能の維持向上を目指し生活の質を高める能力を養う。		
到達目標	1. 習得した基礎知識、技術をもとに、実践的な学習を通して歯科衛生士としての専門性を身につける。 2. 口腔機能向上サービスを提供するために必要な知識・技術を学ぶ。 3. 口腔ケア対象者に対して適切な対応ができる。		
学習方略	臨床実習		
成績評価方法	臨床実習前・中・後実習評価・指導者評価・出席状況		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	臨地実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔保健を担う専門職として必要な知識を身につける ・ 臨地の場にいる歯科衛生士の役割を理解する ・ 対象者の問題を総合的に把握し理解する能力を身につける ・ 保健、医療、福祉、介護の場において多職種と協働する能力を身につける ・ コミュニケーション能力を身につける ・ 自己を客観的に評価し、自ら向上する態度を身につける <p>詳細については、臨地実習の実習帳参照</p>	臨地実習施設 指導 歯科医師 指導 歯科衛生士 舟橋
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

授業科目	テーマ研究	分 野	選択必修分野
時 期	3 学年 通年（後期）	単位数	3 単位（45 時間）
担 当 者	永田一樹・橋本紀洋・黒江敏史 齋藤壽彦・石川恵生・穂積英樹 村上任尚・大峽 潤・富樫正樹 吉川圭美・塩田千尋	実 務	○（歯科医師）
教 科 書	卒業研究 HAND BOOK（クインテッセンス出版）		
参 考 書			
一般目標	歯科保健の現状を分析し、みずから問題点を発見し、その解決能力を身につける 課程において、医療職のアイデンティティとしての研究を学習する		
到達目標	1. 研究に必要な基本的内容を列挙する 2. テーマの選択方法を理解する 3. 研究の進め方を列挙する 4. 発表の方法・論文のまとめ方を理解する		
学習方略	講義・演習		
成績評価方法	研究発表・研究論文		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	演習		教務
2			
3	テーマ研究発表会練習		永田
4			
5	テーマ研究発表会準備		教務
6			
7	テーマ研究発表会		教務
8			
9	研究集録作成		教務
10			

授業科目	総合講義	分野	選択必修分野
時期	3学年 後期	単位数	4単位 (60時間)
担当者	各科目講師	実務	
教科書	これまでに使用した専門基礎分野、専門分野系の歯科衛生士教本		
参考書			
一般目標	専門基礎分野、専門分野科目において学んだ事項を復習し、総括するとともに問題演習等によって理解と応用力を深め、歯科衛生士国家試験に対応する知識を身につける。		
到達目標	1. 基礎的知識の説明ができる 2. 各治療に対する理解を深め、説明することができる		
学習方略	講義		
成績評価方法			
回	授業項目	学習内容	担当者
1	解剖学	科目の重要事項についての理解	粕谷
2	組織・発生学		深瀬
3	生理学		関口
4	生化学		斧
5	口腔解剖学 (口腔)		岩沼
6	口腔解剖学 (歯)		松田
7	口腔生理学		奥山
8	病理学・口腔病理学		早坂
9	微生物学・口腔微生物学		早坂
10	薬理学・歯科薬理学		豊口
11	口腔衛生学		小関健
12	保健情報統計学		塩田
13	衛生学・公衆衛生学		長沼
14	衛生行政・社会福祉		村上
15	歯科衛生士学総論		結城
16	保存修復学		石川隆

17	歯内療法学		有泉
18	歯周病学		両角
19	歯周病学		両角
20	歯科補綴学		鈴木喜
21	口腔外科学		石川恵
22	小児歯科学		沼澤
23	歯科矯正学		齋藤
24	高齢者歯科学		田中
25	障害者歯科学		長沼
26	歯科放射線学		飯久保
27	歯科放射線学		飯久保
28	歯科予防処置論（う蝕）		大場
29	歯科予防処置論（歯周）		秋葉
30	歯科保健指導論		小関千
31	歯科保健指導論		人見
32	歯科保健指導論		結城
33	栄養指導		久松
34	歯科診療補助論		半田
35	感染予防学		玉澤
36	臨床検査法		白田